

父との生活に抵抗が…

原発事故の放射能汚染から身を守るため、母と中学2年の妹、私の計3人で東京に避難しています。父は仕事の関係で福島に残りました。最近、父から体調がすぐれないとの電話があり、母は戻る準備を始めました。しかし、私は父と顔を合わせての生活に抵抗があるのですが。(東京・高2女子)

かりました。第一子のあなたが生まれた時、家族中が喜びに沸き返ったことと思います。その後、若かったお父さんは幼児期の反抗期、思春期の第二反抗期に入った時にも細かなしつけ、将来を考えての勉強など厳しかったでしょう。それをあなたは、うるさいと感じ、いつ暴力を振るわれるかと恐怖心を抱いたのではないのでしょうか。

学校支援ボランティアの会
ダイヤルこだま・いわき会長

塩 正守

不満や怒りを 書簡にしては

(電話から) 幼児期にお父さんから受けた暴言、罵倒、無視などが、あなたの心に深い傷となり憎しみとなって、思春期にはお父さんへの徹底抗戦という過程をたどっていることが分

簡を送ってみてはどうでしょう。執筆中、うるさいとか余計なことだと感じたお父さんの目配り、気配りなどを思い出すかもしれせん。それらは、あなたへの愛情表現だったのです。未曾有の震災、それに放射能の恐怖、さらに父親の体調不良。家族全員が一枚岩になるのは今です。